

進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2009.10.15

1, 2年生用

厳しい就職戦線 来年も！



昨年秋以降の世界的経済の落ち込みに伴い100年に一度の大不況といわれている中で今年の就職戦線は、かつてない厳しい現実には遭遇しています。一昨年の一次での就職不合格者は5人、昨年が7人に対して、今年は就職希望者の半数に当たる約30人という状況です。しかも昨年までは3月までには全員の進路が決まりましたが、今年は二次募集の企業がほとんど全く無い状況です。いろいろな企業にお願いしても全くよい返事がもらえません。このままでは卒業式を過ぎて、職が決められない生徒がかなりの数にのぼりそうです。このようなことはこれまでなかったことです。

今後の経済見通しも決して明るくありません。最近日本の経済も一頃に比べて大分上向いてきたと言われています。しかしそれも3月までの暫定処置としてのエコ減税等政府の対策によるもので需要の先食いと懸念され、その後の先行きに不安があります。確かに各企業では仕事も少しづつ増え、人が欲しくなってきたところもあるようです。しかし、年明けの1月から3月にかけてもう一度景気の二番底が来るのではと企業関係者は警戒し新規採用に踏み込めないようです。経済もあと2~3年はそれほどめざましい回復は望めそうにありません。つまりここ1、2年の就職戦線も本年並みの厳しさが予想されます。

本年の就職戦線の特徴的なことをあげておきましょう。今後の参考にしてください。

1 基礎学力重視

各企業ともに厳しい状況下で出来るだけ優れた人材を採用したいという思いになっています。これまでは面接重視といわれましたが、今年は学力が重視され、基礎学力の不足で不合格となった生徒が多くいました。日頃からの基礎学力を付けることを心がけて欲しいものです。

2 特徴のある生徒の採用

運動クラブで3年間頑張ったもの、資格をしっかりとっているもの、生徒会活動等で活躍したもの等、何かに打ち込み売りのある生徒が有利となっています。

3 コミュニケーション能力があるもの

成績がよくてもおとなしく、覇気が無く、コミュニケーション能力に欠けた生徒は要注意です。従来面接で重視された点です。

4 欠席が多い者は極めて不利

進学者も同様ですが3年間で15日以上欠席のあるものは極めて不利となります

5 普通科の生徒の進路が厳しい

上伊那地区の企業はほとんどが製造業です。「出来れば工業科の生徒を」といわれる企業が多くなっています。そのためか、今回普通科の生徒の不合格者が極めて多くなっています。普通科の生徒で就職希望者は特に注意が必要です。普通科の生徒は可能ならば出来るだけ進学を検討した方が良いかもしれませんが、但し進学はお金がかかります、親とも今からよく相談しておきましょう。

いずれにせよ、就職はきわめて厳しい状況がまだしばらく続きそうです。中途半端な気持ちで過ごしていると、君の進路は保証できません。そのとき人ごとではなくなります。

